

# 令和7年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会代表理事会長 樽井 功



新年あけましておめでとうござ  
います。

組合員の皆様におかれましては、  
日々営農に更に邁進されておられ  
ることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が  
一丸となり地域農業の振興や地域  
社会の発展に向け、日頃より多大  
なご尽力をされていることに對し  
まして、改めて敬意と感謝を申し  
上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、  
春先から天候に恵まれ、各作物の  
生育は全般的に平年よりも早く進  
んでおりました。しかしながら、  
夏場は猛暑・豪雨による記録的な

高温多湿の影響を受け、各作物等  
の収量および品質に影響が出た年  
となりました。

近年、気候変動等による自然災  
害の多発や栽培適地の変化、国際  
紛争や急激な円安の進行による飼  
料・肥料をはじめとした生産資材  
の高止まりが農業経営に甚大な影  
響を与えており、農業・農村を取  
り巻く環境は一段と厳しさを増し  
ております。

昨年には、四半世紀ぶりに食料  
・農業・農村基本法が改正され、  
現状に即した基本理念の見直しと、  
「食料安全保障の抜本的な強化」、  
「環境と調和のとれた産業への転  
換」等の実現が盛り込まれました。  
政府は、初動5年間で農業構造転  
換集中対策期間と位置づけ、施策  
を集中的に実行するとともに、今  
年3月に食料・農業・農村基本計  
画を策定するべく引き続き検討を  
進めております。

J Aグループ北海道としては、

食料安全保障の強化と持続可能な  
北海道農業の確立のために、農地  
の確保および適正利用の強化、食  
料・自給飼料等の安定生産・供給  
と環境負荷軽減の両立に取り組み  
ながら、それを後押しする力強い  
政策支援を求めていくことが重要  
と考えております。

また、昨年は第31回J A北海道  
大会が開催され、「食料安全保障  
の強化と持続可能な北海道農業の  
確立」、「J Aの組織基盤の強化と  
健全な経営基盤の確立」、「アグリ  
アクション北海道の推進による農  
業・食・J Aへの理解醸成」の3  
つの議案を決議いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組  
合員・J A・連合会が一丸となっ  
て、生産現場の行動変容と組合員  
の意思結集による農政運動、J A  
の経営管理の高度化やデジタル化  
の推進による業務効率化・生産性  
向上に取り組んでいかなければな  
りません。

さらに、消費者の皆様には、J  
Aグループ北海道統一の情報発信  
のプラットフォームである「アグリアクシ  
ョン北海道」を浸透させるととも  
に、効果的な情報発信により、今

まで以上に農業・食・J Aに対す  
る理解を深めていただき、J Aグ  
ループが提唱する「国消国産」の  
認知を広めてまいりますよう。

結びになります。本年は巳年  
です。巳（へび）は冬眠から目覚  
め地上に這い出すことから、冬に  
根をはった草木が芽を出し「新し  
い種子が生まれる」という意味が  
あると言われ、転じて、巳年は力  
を蓄えていたものが芽を出す「起  
点」の年、脱皮する特性と併せ「再  
生と誕生」を意味する年だと言わ  
れています。

この謂われにあやかり、本年が  
北海道農業の飛躍の起点となるこ  
と、皆様のご多幸とご健勝をご祈  
念申し上げ、年頭のご挨拶といた  
します。

